

令和7年度

事務事業の点検評価結果報告書

令和8年3月

池田町教育委員会

養基小学校養基保育所組合立教育委員会

# 第1 点検評価結果の概要

## 1 趣旨説明

池田町教育委員会では「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条に基づき、令和7年度の教育委員会の事務の管理及び執行の状況について点検評価を行い、その結果に関する報告を行うものです。

参考 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律 抜粋」

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 2 点検評価の実施について

教育委員会は、「池田町教育委員会事務点検評価委員会設置要綱」に基づき、令和7年度の教育委員会の事務事業等について点検・評価を実施しました。

<評価について>

各担当課（給食センターを含む）ごとの設定した項目について、次の4区分により、その達成度の評価を行いました。

評 定	内 容
A	順調に達成しているもの
B	おおむね順調に達成しているもの
C	達成見込みであるが課題があるもの
D	順調でないもの

なお、地教行法第26条第2項に規定されている「教育に関し学識経験を有する者の知見の活用」については、「池田町教育委員会事務点検評価委員会設置要綱」に基づき、評価委員会を設置し、評定結果に対する意見の聴取を行いました。

3 各課別点検評価結果（詳細は 第3 各課事務事業の点検評価シート）

NO	学校教育課	評価
1	教育委員会の開催	A
2	外国語活動	B
3	地域学校安全事業	A
4	教育支援員配置事業	B
5	教育相談事業	B
6	寺子屋学習事業	A
7	学校あり方検討事業	B
8	キャリア教育事業	A
9	施設整備事業	B
10	スクールロイヤー研修事業	A
11	教育センター研修事業	A
12	幼保小連携事業	A
社会教育課		評価
1	生涯学習推進事業 ・公民館関係 ・体験活動等	B A
2	地方創生事業	B
3	公民館改修事業	A
4	青少年育成事業 少年補導員 青少年育成町民大会	A B
5	家庭教育学級事業	A
6	文化振興事業	A
7	二十歳を祝う会事業	A
8	霞間ヶ溪さくら会館事業	C
9	ゆうごう・ほっと館事業	C
10	文化財保護事業 霞間ヶ溪さくら育成事業	A C

No	図書館	評価
1	資料整備・管理事業	A
2	読書振興・啓発事業	A
3	園児読書推進事業	A
4	録音図書作成事業	B
5	工事・修繕等	A
6	郷土資料デジタルアーカイブ事業	A
7	図書館システム更新	A
総合体育館		評価
1	池田さくらマラソン	B
2	地域クラブ活動整備	B
3	ねんりんピック岐阜	A
4	総合型地域 SP	B
5	生涯スポーツ振興	C
6	池田町レクリエーション大会	A
7	プール施設利用補助	B
8	トレーニング体験	A
給食センター		評価
1	給食調理	A
2	施設管理	B
3	負担金処理	A

#### 4 点検評価結果の全体の概要

A 順調に達成しているもの	25 / 43項目 (58%)
B おおむね順調に達成しているもの	14 / 43項目 (33%)
C 達成見込みであるが課題があるもの	4 / 43項目 (9%)
D 順調でないもの	0 / 43項目 (0%)

## 第2 点検評価委員会の意見

学校教育課 外国語活動 (B)
<p>英語が教科になってから英語を楽しいと答える生徒が全国学調結果で6割ほどとなっている。以前は、池田町は特区で英語活動に力をいれており、その当時は「英語をもっと勉強したい」子どもが90%いた。池田町として何か対策を考えているか。ALTやJALTを配置し英語支援をしているのは評価できる。</p> <p>以前に実施していた「ニュージーランド研修」は生の英語を活かす良い機会であったが、コロナの影響で中止になった。その後はどうか。</p>
学校教育課 教育支援員配置事業 (B)
<p>支援員配置について、支援が必要な子どもが増えているのは現状で、そのまま支援員を配置しては人件費が膨大になることは明らかである。支援を点で捉えずに面で捉えて支援していくことを期待する。</p>
学校教育課 学校のあり方検討事業 (B)
<p>会議やミーティングを開催しているのが、会議の中で「何を質問して良いのか分からない」という声を聞く。具体的なビジョンを示す必要があるのではないか。子どもを中心に考え、夢のあるビジョンを示すことで地域や保護者からの意見も多くなるのではないか。</p>
社会教育課 生涯学習推進事業 (B)
<p>高年齢化が進み、生涯学習の考え方も変わってきている。定年後も学びから就労への時代である。公民館活動教室の10人中3人が90代という時代であるから、エレベーターを設置するなど高齢者が通える公民館にすることが必要である。</p>

社会教育課 青少年育成事業 (A)
少年補導員などのなり手が無いのも事実である。交通当番をする時間帯は就労しており、物理的に見守り参加が難しい。少子化で分団数も減っているため、機能に合わせた人的配置、予算配分を期待する。
社会教育課 文化財保護事業 (A)
池田山の古墳が整備されているのは評価できる。
総合体育館 地域クラブ活動整備事業 (B)
部活動への加入率が低くなっている。部活動は経験づくりのための良い場となっていた。失敗を経験して自分づくりが出来るため、補完できる対策を期待する
総合体育館 生涯スポーツ振興事業 (C)
年齢で区切られる活動が多い。3世代で活動できるような活動を検討している。子育てするなら「池田町」と思ってもらえるような環境づくりを期待する。
全体を通して
業務にもっとAIを取り入れると、使い次第では本当に便利になる。AIによる資料づくりやイメージ作りが出来ると良い。
教育大綱がよく考えられている。これが政策の軸となる。「子どもたち同士のふれあいを通じて生きる力を育む」ということが重要である。これに対して、様々な政策がどのように紐付いているのかを、もう少し明確にできると良い。例えば「子どもたち同士のふれあい」について、今はどうなっているのか、もっとこういうこともできるのではないかと具体的なイメージが沸くと良い。そして、それをバージョンアップさせていく。地域の公園で、元気に走り回る子もいれば、ゆっくり歩く子も車椅子の子もいる。そんな多様な子どもたちが生き生きと過ごす姿を支える政策がみえてくることを期待する。子どもを多層的にみると良い。キャリア形成や文化財保護なども、子どもたち同士の学びあいに繋がる。
評価基準が分からない。これだけ細かくやっていて「評価B」は勿体ない。目標があって、それを達成しているのであれば「評価A」が良い。伸び代を含めて「評価B」にしなくても良い。今後、枠組みを整備できるのであれば「教育大綱」に基づいて評価してみてはどうか。それにより課を超えた政策に対する評価となる。